

書

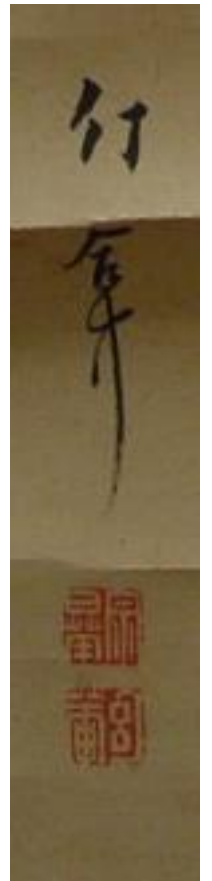
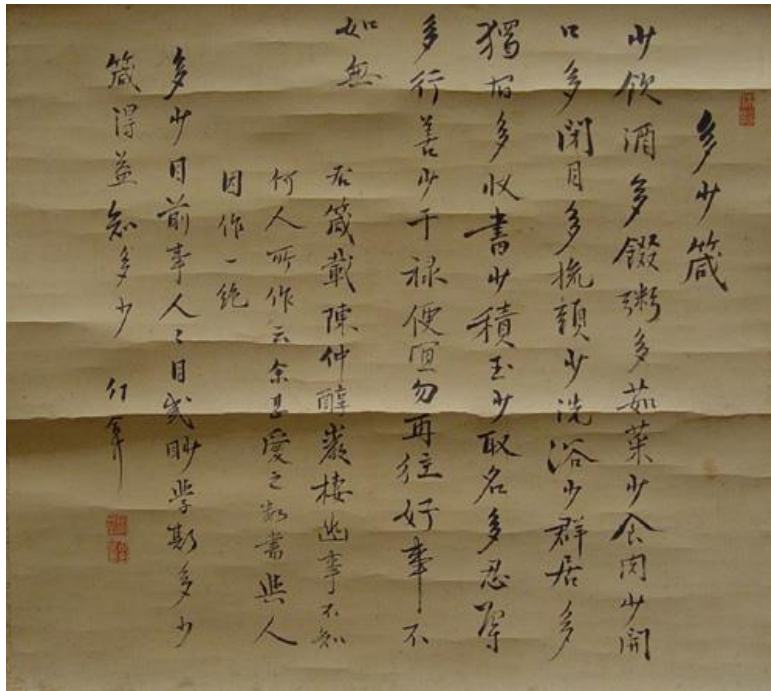
幻庵

制作年：江戸後期

サイズ：30.2×33.2cm

材質：紙本墨書

所蔵：中津市木村記念美術館



多少箴
 少し酒を飲み、多く粥を嚙る。
 多く野菜を茹で、少し肉を食べる。
 少し喋り、多くを見ないようにする。
 多く頭を梳かし、少し洗うようにする。
 少し群れ、多くを一人で過す。
 多く書をおさめ、少し財を蓄える。
 少し有名になり、多くの恥をしる。
 多く善行をつみ、少し祿をもとめる。
 都合のよい事は再いはおこなない。
 好い事は無いことと受けない。

画面右上：「休口」（白文方印）

画面左下：墨書「幻口」

「宗口」「幻庵」（白文方印）

箱書：「曇栄南溟弟/住福岡聖福寺幻住庵/亀井幻口書」

1996(平成8)年に中津市に寄贈

幻庵（げんあん）は亀井南溟の弟曇栄（どんえい）で、博多の崇福寺の住職をつとめた人物です。一説によれば、雲華上人が亀井父子と行き来をしていた頃より曇栄について座禅観法を学び、その優秀な事から曇栄は自分の名前の「曇」の字から「日」をとった「雲」の一字を与えたとされます。